



欧州委員会
エネルギー総局
原子力・安全・ITER局

マッシモ・ガリーバ
原子力・安全・ITER 局長

「EU の低炭素社会の未来における原子力エネルギーの役割」－要約ⁱ

第 52 回原産年次大会

2019 年 4 月 10 日、東京

2018 年 11 月、欧州委員会は「豊かで近代的であり、競争力のある気候中立な経済へ向けた、欧州戦略的長期ビジョン(*European strategic long-term vision for a prosperous, modern, competitive and climate neutral economy*)」(略称「クリーン・プラネット・フォー・オール」)を発表した。この欧州長期戦略は、パリ協定に沿って、地球温暖化による気温上昇が 2°C より十分下回るものにするるとともに、1.5°C までに抑える技術に関連した科学的知識に基づき、温室効果ガス排出量を削減する道筋を検討するものである。

経済におけるすべての分野が、2050 年までに達成される低炭素社会への移行において何らかの役割を担い、電力はその中心的な役割を果たすことになる。この長期戦略は、2050 年までに電力の 80% 以上を再生可能エネルギーと原子力で賄うことを目指している。

さらに将来的には、21 世紀後半、核融合が炭素を排出しない安全かつほぼ無尽蔵の新たなエネルギー源になる可能性がある。EU が世界最大の核融合実験「ITER プロジェクト」を支援する、国際的な取り組みを主導しているのはそのためである。

ⁱ 原産年次大会のウェブサイトで使用